

# Economic Indicators

発表日: 2020年4月10日(金)

## 企業物価指数(2020年3月)

～新型コロナウイルスの影響で5か月ぶりの前年比マイナス、先行きも低下は続く見通し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		国内企業物価				最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)		
		前期比	前期比※	前年比	前年比 (消費税除く)	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
2019	3月	0.3	0.3	1.3	1.3	0.3	▲0.3	0.3	1.3	0.7	0.1	1.5	2.4	
	4月	0.4	0.4	1.3	1.3	0.7	0.8	0.4	1.4	0.4	0.2	0.3	1.5	
	5月	▲0.1	▲0.1	0.7	0.7	0.0	0.3	▲0.2	0.7	▲1.4	▲2.6	▲0.6	▲1.9	
	6月	▲0.6	▲0.6	▲0.2	▲0.2	▲0.5	▲0.4	▲0.4	0.1	▲1.7	▲4.3	▲2.0	▲5.8	
	7月	▲0.1	▲0.3	▲0.7	▲0.7	0.0	▲0.5	▲0.1	▲0.4	▲0.3	▲5.0	▲1.9	▲8.4	
	8月	▲0.2	▲0.2	▲0.9	▲0.9	▲0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲5.9	▲0.6	▲8.5	
	9月	0.0	▲0.1	▲1.1	▲1.1	0.1	▲0.8	0.1	▲0.8	0.0	▲6.3	▲0.8	▲9.7	
	10月	1.2	1.5	▲0.3	▲1.9	▲0.4	▲1.9	1.2	0.0	0.4	▲6.3	0.3	▲10.9	
	11月	0.1	0.1	0.2	▲1.4	0.1	▲1.1	0.1	0.4	0.2	▲6.1	0.3	▲11.3	
	12月	0.1	0.1	0.9	▲0.7	0.4	0.2	0.1	1.0	0.1	▲4.4	1.0	▲6.7	
	2020	1月	0.1	0.1	1.5	0.0	▲0.2	0.6	0.1	1.6	0.3	▲1.5	0.6	▲0.8
		2月	▲0.4	▲0.4	0.8	▲0.8	▲0.4	▲0.2	▲0.4	0.9	0.2	▲2.2	0.1	▲1.8
3月		▲0.9	▲0.9	▲0.4	▲2.0	▲0.9	▲1.4	▲0.8	▲0.2	▲2.3	▲5.1	▲4.7	▲7.7	

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

### ○ 新型コロナウイルスの影響による商品市況の悪化により、前年比で5か月ぶりの低下

3月の国内企業物価は前月比▲0.9% (コンセンサス: 同▲0.7%、レンジ: 同▲1.3%~▲0.2%)、前年比▲0.4% (コンセンサス: 同▲0.1%、レンジ: 同▲0.8%~+0.5%) と、コンセンサスを下回る結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲2.0%となった。2月に引き続き商品市況の大幅悪化を主因に、国内企業物価は低下幅が拡大、前年比では5か月ぶりの低下となった。

前月比で内訳をみると、石油・石炭製品が前月比▲9.2% (寄与度: ▲0.59%pt)、非鉄金属が同▲4.3% (同: ▲0.11%pt)、スクラップ類が同▲3.3% (同: ▲0.02%pt) となった。また、生産用機械も同▲0.7% (同: ▲0.03%pt) と低下に寄与している。原油価格の急落や新型コロナウイルス感染拡大による世界経済への悪影響の強まりから、国内企業物価は2か月連続で低下した。感染拡大の終息は見通せず、4月以降も国内企業物価は低下が続く可能性が高い。

輸入物価指数は契約通貨ベースで前月比▲3.2%、円ベースで同▲4.7%となった。ガソリンなどの石油・石炭製品や銅地金などの非鉄金属などが低下に寄与し、契約通貨ベースで大幅な低下となった。また、円ベースでも為替の円高により前月比で低下した。商品市況の低迷は続いており、4月以降も輸入物価は低下が続くと予想する。

### ○ 需要段階別・用途別指数は2月に引き続き低下、4月以降も低下する公算大

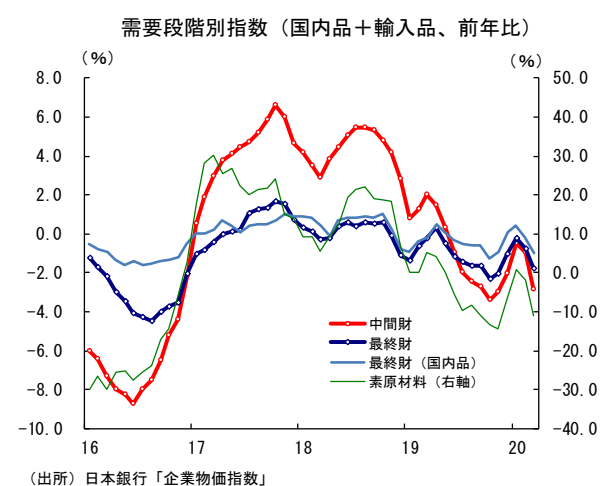
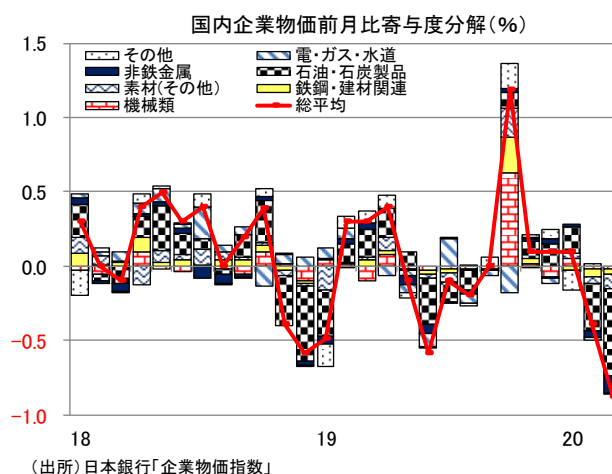
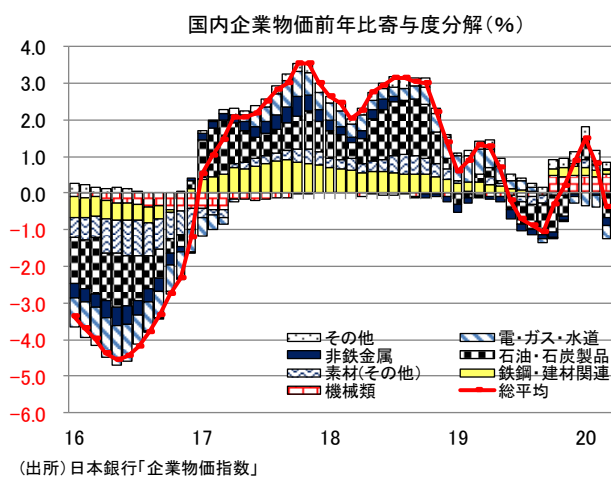
需要段階別・用途別指数 (国内品+輸入品) をみると、素原材料は前月比▲6.8% (前年比▲10.9%)、中間財は同▲1.4% (同▲2.9%)、最終財は同▲0.9% (同▲1.8%) となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は同▲0.9% (同▲1.4%) となった。2月に引き続き商品市

況の悪化を主因に、素原材料を中心に低下した。新型コロナウイルス感染拡大の影響は深刻なものとなっており、4月以降も低下する可能性が高い。

### ○ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大から、国内企業物価は4月以降も低下が続く公算大

以上より、3月の国内企業物価は、2月に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大による商品市況悪化を主因に前月比で低下、前年比でもマイナスに転じた。また、消費税を除いた前年比での低下幅は▲2.0%と非常に大きく、16年11月（▲2.3%）以来の落ち込みとなっている。

日本国内でも緊急事態宣言の発令など経済活動の自粛が要請されていることに加え、世界各国で経済活動の制限が続いていることなどから、景気的大幅な悪化は避けられないだろう。輸出の急減は必至の情勢で、それに伴い企業の生産活動の停滞も見込まれる。また、商品市況の低迷も続いている。足元で銅価格がやや上向いたものの低水準の推移となっており、原油（ドバイ）は20ドル台で推移するなど更に悪化している。4月以降もその影響は現れるだろう。新型コロナウイルス感染拡大の終息が見通せない中、先行きの国内企業物価は前年割れの展開が続くとみられる。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。